References

Crété, P. 1963. Embryo. *In* Maheshwari, P. (ed.): Recent advances in the embryology of Angiosperms. Delhi. Johansen, D. A. 1950. Plant embryology. Mass. Mestre, J. C. 1963-64. Recerche d'embryogenie comparee: les rapports phylogenetiques des Composées. These, Univ. Paris. Pullaiah, T. 1979. Studies in the embryology of Compositae IV. The Tribe Inuleae. Amer. J. Bot. **66**: 1119-1127. —— 1984. Embryology of Compositae, Delhi. Tongiorgi, E. 1942. Il gametofito tetramegasporiale di *Helichrysum bracteatum*. N. G. Bot. Ital. **49**: 205-220.

* * * *

Helichrysum bracteatum の花粉形成，胚嚢・胚形成を観察した。葯壁の形成は Dicotyledon type である。葯のタペート形成は Periplasmoidal type である。成熟した花粉は3細胞である。胚嚢形成は *Drusa* type，胚形成は Asterad type である。

□橋爪 真：**駒ケ根の鼓藻類と珪藻の増大胞子** 167pp. 1985. 精興社，東京. ¥7,000. 長野県下の高校にあって永年藻類を観察し，熱心に藻類の撮影を続けている橋爪真氏の成果の集成であり，鼓藻類358種と羽状珪藻類8種の顕微鏡写真が収録される。よく知られるように，これらの藻群は昔は二殻類 (Diatomaceae) と呼ばれ，ともに有性生殖はアメーバ運動をする配偶子の接合による。しかし，実際にこの接合現象をわれわれが見ることは多くなく，むしろ稀でさえある。著者は有性生殖に格別の興味をもった由で，たゆまない努力により80余種の接合現象と接合胞子の写真撮影に成功している。章の後半には，鼓藻類の分類・分布の研究史，有性生殖についての解説が挿入され，また著者が観察した羽状珪藻の有性生殖の特色が述べられている。本書は題名が示すように長野県の一地方から得た材料に基づいてつくられているが，様々な接合型の写真が収録され，接合藻類の有性生殖一般の知見も与えてくれる。これは本書の一つの特色でもある。3章から成り，1. 鼓藻類の種類，2. 生態，3. 羽状珪藻の 有性生殖であるが， 内容からいって2は生殖でよかった。珪藻とケイソウの統一も欲しかった。しかし，これらは細かい事である。生物進化の面で，また生態の面で頗る興味のあるツヅミモ類について，教科書にない，いわばナマの知識を与えてくれる労作である。なお著者は分類は平野実博士に，生殖や生活史については市村輝宜博士に師事している。 (千原光雄)